

### 3. 西東京市の環境の現状と課題

#### 3.1. 西東京市の概況

##### ■西東京市の位置と地勢

西東京市は、東京都心の西北部、武蔵野台地のほぼ中央に位置し、北は埼玉県新座市、南は武蔵野市及び小金井市、東は練馬区、西は小平市及び東久留米市に接しています。

市域は、最高標高 67.0m（芝久保町三丁目付近）、最低標高 46.7m（下保谷三丁目付近）であり、ほぼ平坦です。市内南部に石神井川が西部から東部に向かって流れ、南部に玉川上水、千川上水といった水路があります。地質は、植物の生育に適している関東ローム層で厚さ 10m 以上の場所が多くなっています。



##### ■気候

西東京市の平成 28 年の平均気温は 16.7℃であり、年間降水量は 1,407mm となっています。平成 28 年の月別平均気温は最高が 8 月の 27.8℃、最低が 1 月の 5.4℃となっており、月別降水量は 8 月が最も多く 276mm となっています。

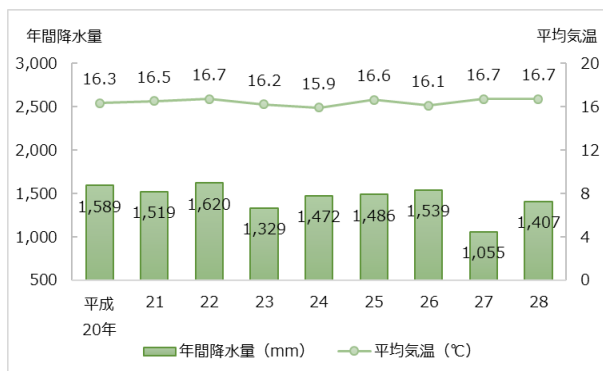


図 年間降水量と平均気温の推移

観測地点：東大生態調和農学機構  
資料：統計にしよう

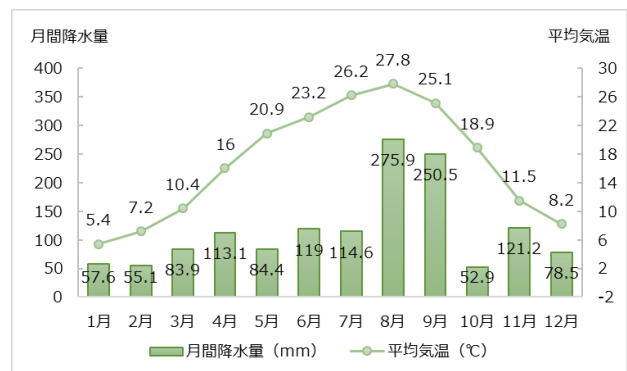


図 平成 28 年の月間降水量と平均気温の推移

観測地点：東大生態調和農学機構  
資料：統計にしよう

## ■人口と世帯

西東京市が合併した年である平成 13 年の 1 月 1 日の人口は 179,710 人でしたが、平成 30 年 1 月 1 日現在の人口は 20 万人を突破し、201,058 人となっています。また、世帯数も増加傾向を示しており、平成 30 年 1 月 1 日の世帯数は 95,878 世帯です。一方、世帯当たり人口は減少傾向にあり、平成 30 年 1 月 1 日で 2.10 人となっています。

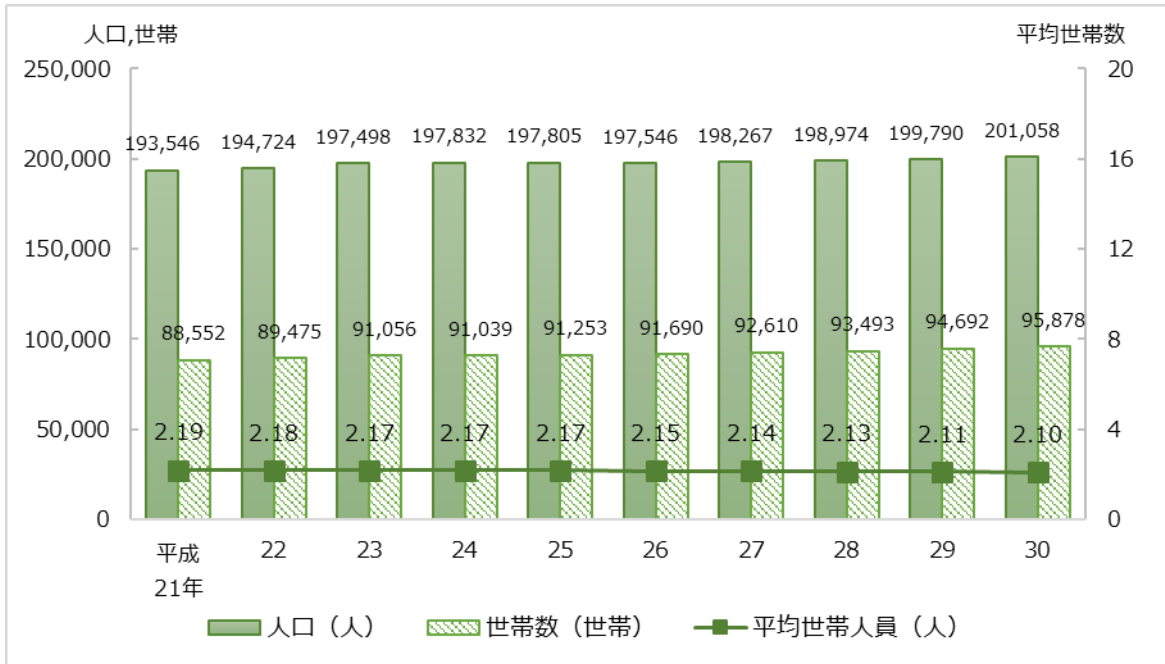


図 人口・世帯数・平均世帯人員の推移

資料：統計にしよう

西東京市の昼夜間人口比率（夜間人口 100 人当たりの昼間人口の割合）は、平成 27 年で 81.0%と、市外に通勤、通学する人の割合が高いベッドタウンとなっています。また、東京都内の自治体でみると、昼夜間人口比率は低くなっています。

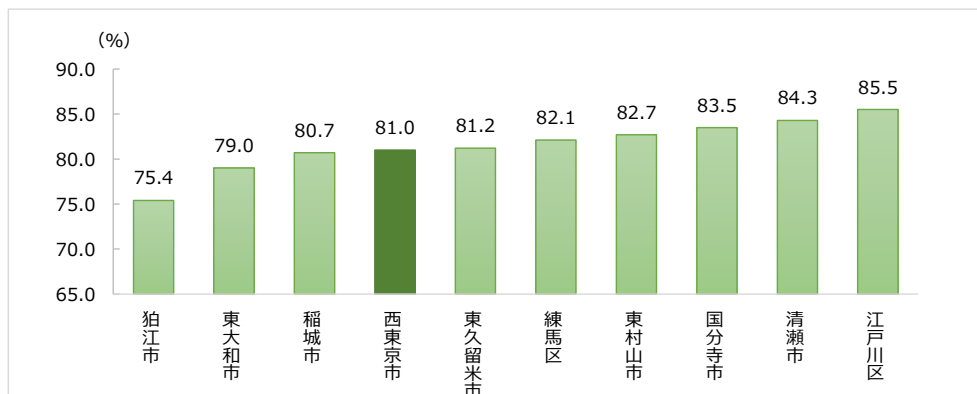


図 東京都の人口の昼夜間人口比率が低い 10 自治体（平成 27 年）

資料：東京都総務局統計部「東京都の人口」

## ■ 土地利用

西東京市は、東西 4.8 km、南北 5.6 km にわたり、面積は 15.75 km<sup>2</sup> です。総面積のうち、宅地が 84.2% を占めており、東京都、多摩六都（西東京市、東久留米市、清瀬市、東村山市、小平市）と比較して高くなっています。

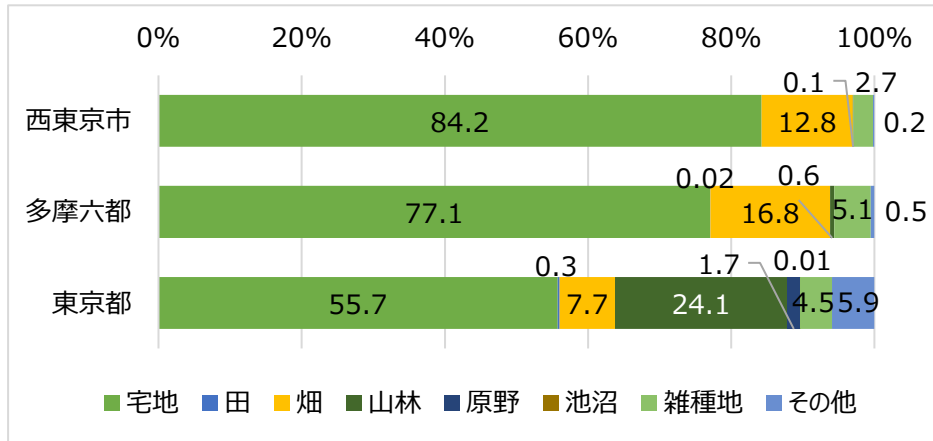


図 土地利用の割合の比較（平成 29 年）

資料：東京都総務局統計部「東京都の人口」

## ■ 産業

西東京市の産業別の従業員数は、平成 27 年度において、第三次産業が約 84% を占め、その割合は増加傾向にあります。一方、第二次産業は約 16% を占め、その割合は減少傾向にあります。第一次産業は 1% に満たない状況が続いています。

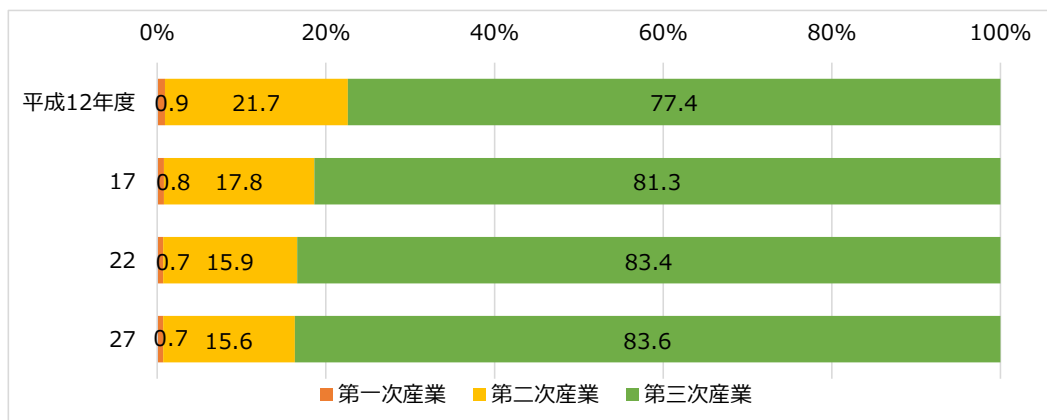


図 産業別従業員数の割合

資料：統計にしよう

## 3.2. 西東京市の環境の現状

### (1) 自然環境、歴史的及び文化的環境資源

#### ■自然環境

##### 〔現状〕

西東京市には、雑木林、屋敷林、農地等の武蔵野の景観が残されていますが、みどりは、都市化とともに減少傾向にあります。また、農地は、農業従事者の高齢化の進行による農家数の減少や、宅地、駐車場等への転用により減少しています。みどりの保全に向け、緑地の保全、保存樹木の指定、生垣造成助成等の補助制度など、様々な支援を行っています。

市内を流れる石神井川は、市民団体により清掃活動が継続的に行われており、市民の憩いの場としてのきれいな水辺環境が存在する場所がありますが、水が流れていない場所や魚類等の生息が確認できない場所もみられます。現在行われている東伏見公園の整備では、東京都と連携を図り、自然環境を保全しつつ石神井川と公園を一体として整備することにより、水とみどりに親しめる憩いの空間づくりが進められています。

これらの市内の緑地・農地・公園等のみどりや水辺等のグリーンインフラは、多様な機能（生物多様性保全、防災・減災、微気候の緩和、健康増進、コミュニティの強化等）を有しており、適切に保全・活用することで持続可能な地域づくりにつながり、地域の活性化が期待できます。

このほか、近年、市内においても、特定外来生物に指定されているアライグマをはじめ、生態系に与える影響が大きい外来種・移入種による被害や目撃情報が増加しています。

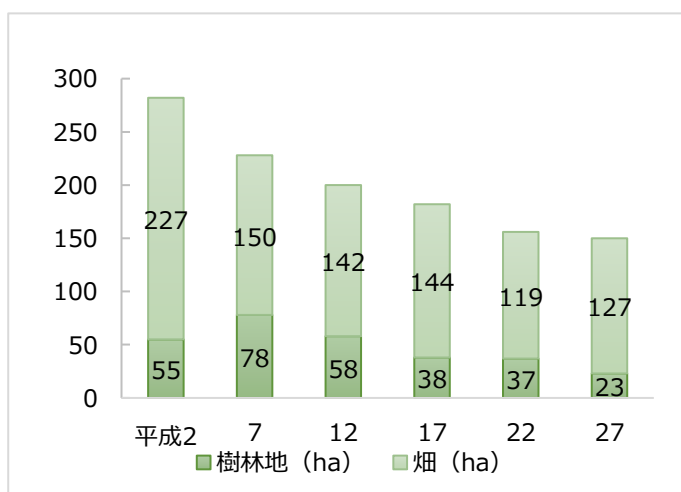


図 経営耕地面積の推移

資料：統計にしようきょう

##### 〔課題〕

みどりを保全するためには、土地所有者や近隣住民等の理解を得て地域全体で協力する取組が重要です。農地については、今後、持続可能な農業経営を進めることで農地の保全を進め、地域の財産として農業者と市民が相互に理解し守っていく仕組みが必要です。

また、多様な生物の生育・生息の場を保全するために、グリーンインフラの保全や活用、生物多様性の現状の把握や市民への意識啓発等を進めるとともに、外来生物についての情報共有や適切な対処が必要です。

## ■ 歴史的及び文化的環境資源

### 〔現状〕

西東京市の自然に生まれ、残されてきた歴史的及び文化的環境資源には、下野谷遺跡等の遺跡、屋敷、社寺を取り囲む屋敷林、社寺林や農業とともに育まれた文化や武蔵野の景観等があります。これらを将来に伝えるため、市内樹木、樹林（竹林）、生垣等の保存樹の保護や、郷土資料室における西東京市の歴史資料についての情報発信を行っています。



郷土資料室の展示物の写真

### 〔課題〕

歴史的及び文化的環境資源は、先人たちの生活を知る資料であり、人と自然との関わりの観点から重要な資源であるため、地域、行政が協力して守り、次世代に引き継いでいくことが必要です。

## (2) 資源の有効活用、ごみの削減

### 〔現状〕

西東京市では、分別に対する市民・事業者の理解と協力のもと、ごみ排出量は減少傾向にあります。

1人1日当たりのごみ排出量は、平成20年度より開始した家庭ごみの有料化の効果で、平成19年度から平成20年度までにかけて大きく減少し、平成21年度以降は、ほぼ横ばいで推移しています。

平成19年度からプラスチック容器包装類の分別収集並びに金属類と廃食用油の集積所回収を開始し、資源化も進んでいます。平成25年4月に「小型家電リサイクル法」が施行され、西東京市においても小型家電の回収を実施しています。

また、生ごみ及び剪定枝の回収、資源化を実施しており、民間事業者による堆肥化や燃料化を通じたバイオマスの利活用を行っています。

さらに、多摩地域において、広域的な焼却残さの処理方法として、平成18年度より埋め立てていた焼却灰のエコセメント化を実施しています。

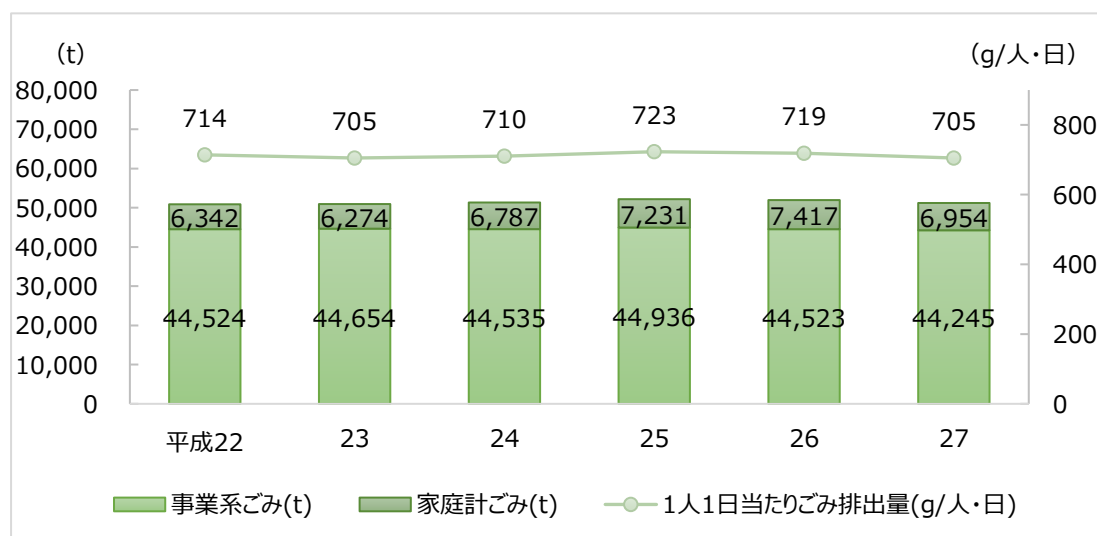


図 家庭系ごみ・事業系ごみ・1人1日当たりごみ排出量の推移

資料：ごみ減量推進課

### 〔課題〕

ごみを埋め立てている処分場のスペースに限りがあるため、西東京市で生活する一人ひとりが3Rに取り組み、さらなるごみの発生抑制と資源化を推進して処分場の延命化を図る必要があります。特に、国の第四次循環型社会形成推進基本計画では、3Rの中でリデュース及びリユースがリサイクルと比べて一般的に資源の減失やその過程から発生する廃棄物等の量が少ないことから「2R」として推進しており、さらに、市民1人ひとりの協力で進められることから、本市においてもより一層の取組を進める必要があります。

### (3) 安全・安心で快適な生活環境

#### ■大気環境等

##### [現状]

西東京市では、大気環境調査、交通量・騒音・振動調査を継続的に実施しているほか、安全・安心な生活環境の確保のため、東日本大震災後は空間放射線量の測定結果をホームページ等で公表しています。

また、大気中の二酸化窒素、浮遊粒子状物質は減少傾向にあり、環境基準を達成していますが、光化学オキシダントについては、環境基準を達成していません。

##### [課題]

自動車の利用や事業活動による大気環境の悪化を抑制する必要があります。エコドライブや事業者による自主的な取組を推進することが必要です。ただし、PM<sub>2.5</sub>等の大気環境は広域的な問題であることから、国や東京都、近隣自治体等との連携が必要です。

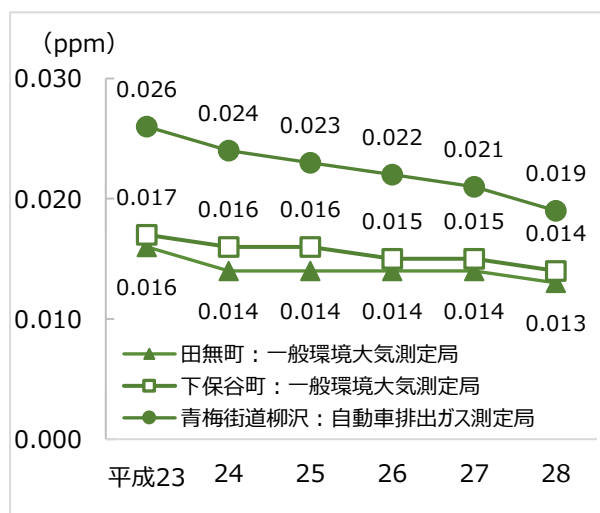


図 大気中の二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) の測定結果 (年平均値)  
資料：東京都環境局

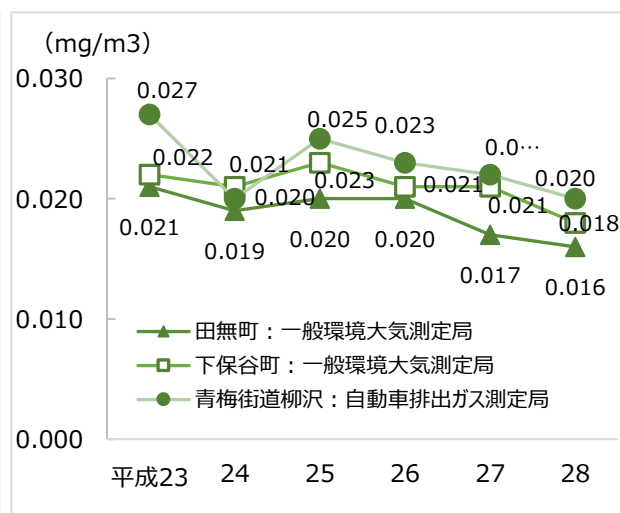


図 大気中の二酸化窒素 (SPM) の測定結果 (年平均値)  
資料：東京都環境局

#### ■河川の水質

##### [現状]

西東京市内には、北部に白子川、中央部に新川（白子川支流）等、南部に石神井川が流れているとともに、武蔵野市との境界に玉川上水、千川上水が流れています。

石神井川は、全体的に汚濁していましたが、生活排水の公共下水道施設の接続が進んだため水質は徐々に改善され、市民ボランティアによる清掃等も行われています。

水質については、溜漕橋のBOD（生物化学的酸素要求量）が環境基準を達成しており、平成29年度に実施した水生生物調査によるとアブラハヤ、ドジョウ、ミナミメダカの生息が確認されました。



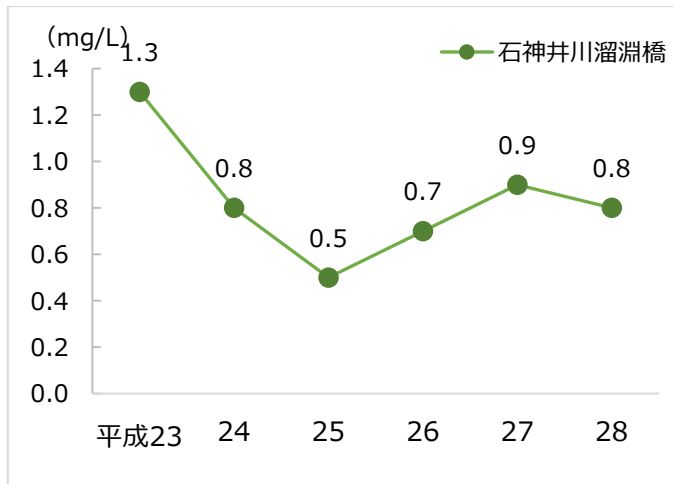
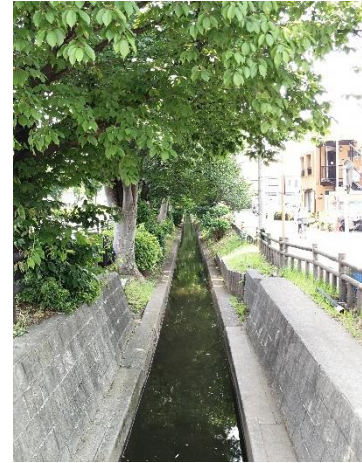


図 石神井川の水質 (BOD)

資料：西東京市環境白書



千川上水

### 〔課題〕

河川の水質調査や市民への啓発活動の継続実施が必要です。市民団体等との協働により、河川の清掃や多様な生物の生育・生息地の形成に向けた取組を進めていくことが課題となっています。また、国や東京都、上流及び下流の近隣自治体等との連携した取組も必要です。

## ■ 低炭素な交通環境

### 〔現状〕

平成 25 年 4 月に一部供用開始した都市計画道路、西 3・2・6 (調布保谷線) では、片道 10m の環境施設帯を設け、その中に歩行者と自転車の通行空間が確保されています。

その他の道路については、概ね歩道幅員が片道 1.5~3.5m であり、整備済の都市計画道路の多くは、歩行者・自転車空間を十分に確保できていません。

### 〔課題〕

高齢化が進むなかで、誰もが市内を安全に移動できる交通環境の整備を進める必要があります。また、バス交通の利便性の向上や歩行者・自転車空間の計画的整備の推進により、低炭素な交通環境の実現を目指します。



市内の自転車道



## ■まちの美化

### 〔現状〕

西東京市では、市内一斉清掃やごみ置き場のパトロール等により、まちの美化に取り組んでいます。また、市内5駅（田無駅、保谷駅、西武柳沢駅、東伏見駅、ひばりヶ丘駅）周辺を路上喫煙（ポイ捨て）防止地区に指定し、清掃活動やマナー向上を呼びかける活動を行っています。

### 〔課題〕

今後も、市民への啓発活動や市内の美化活動の継続的な実施が必要な一方、地域における企業や自治会、商店会、市民ボランティア等の協力が必要です。

また、受動喫煙についても、健康増進法改正の動向や2020年の東京都受動喫煙防止条例の完全施行を踏まえ、関係機関との連携が必要です。

## (4) 地球温暖化対策の推進

### ■ 温室効果ガス排出量

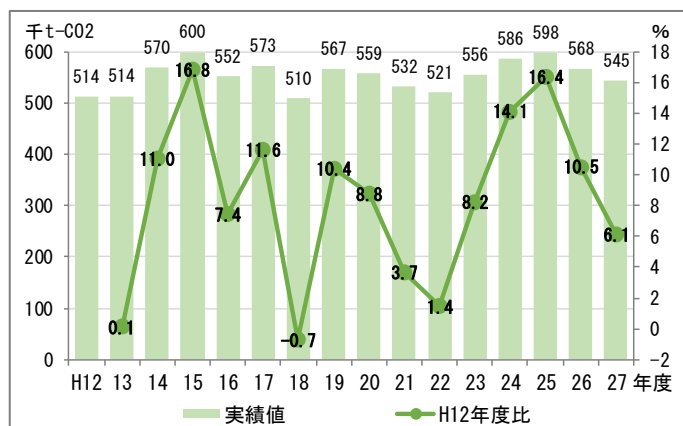
#### [現状]

西東京市では、地球温暖化対策として市民や事業者の地球温暖化対策の普及に向けた啓発や助成を行い、市民・事業者による省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの導入を進めています。東日本大震災以降、東京電力管内の原子力発電の停止に伴い、液化天然ガスや液化石油ガス、石炭、石油等の化石燃料の消費が増大したことが影響し、温室効果ガス排出量は、550 千 t-CO<sub>2</sub> 前後で推移しています。平成 27 年度の部門別二酸化炭素排出量の割合をみると、民生家庭部門が最も多く 50%を占め、次いで、民生業務部門が 26.6%、運輸部門が 13.5%、産業部門が 6.5%の順となっています。

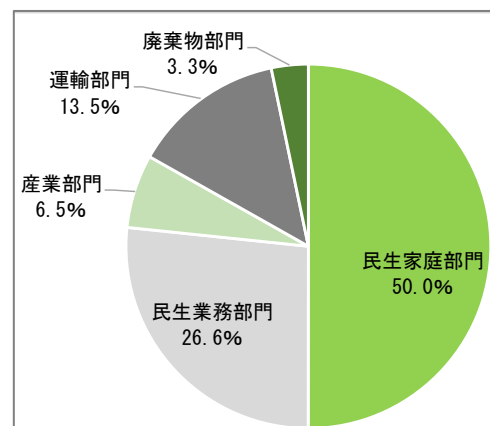
一方、エネルギー消費量は、着実に減少してきており、平成 27 年度は平成 12 年度比で 22.3%削減されています。

#### [課題]

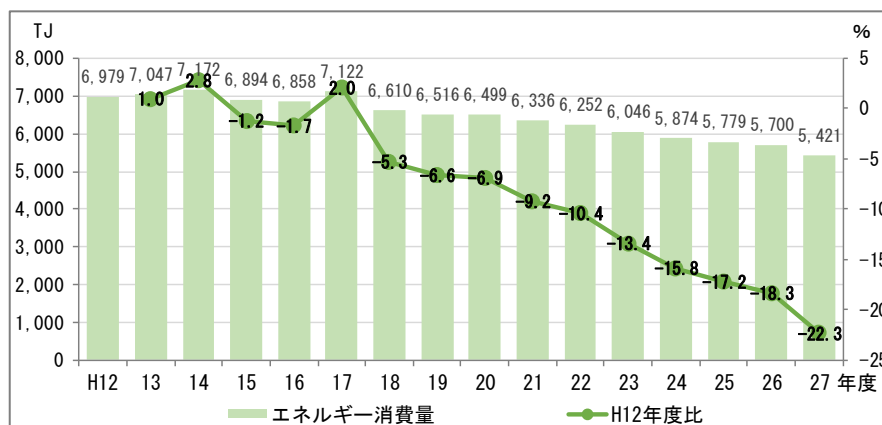
温室効果ガス排出量の現状を踏まえ、二酸化炭素排出量が増加傾向にある民生家庭部門や民生業務部門における、より一層の低炭素社会の実現に向けたまちづくりを推進していくことが求められています。また、地球温暖化問題が起因すると思われる豪雨等の被害が日本各地で多発する中、地球温暖化への適応策の検討及び対策を実行する必要があります。



温室効果ガス排出量の推移



部門別二酸化炭素排出量 (平成 27 年度)



エネルギー消費量の推移

## ■環境マネジメントシステム

### 〔現状〕

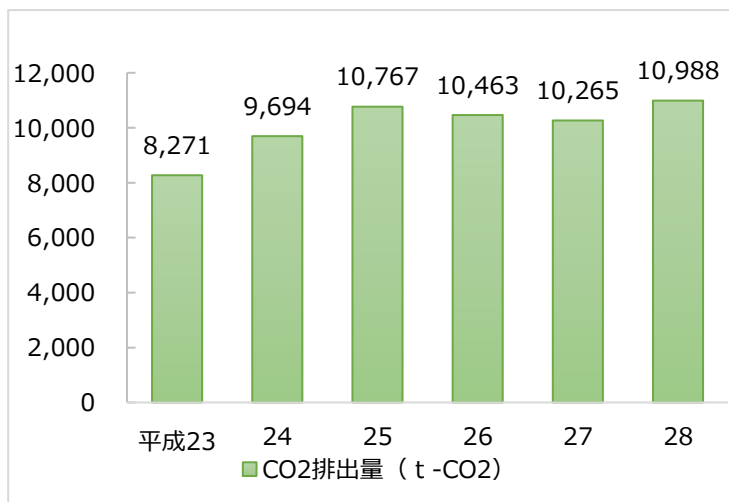
西東京市では、独自の環境マネジメントシステムを運用しており、職員の省エネルギーと省資源に対する意識の向上や公共施設への再生可能エネルギーの導入を進めています。

また、平成27年度には「西東京市第二次地球温暖化対策実行計画（事務事業編）後期計画」策定し、市内の一事業所として温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

### 〔課題〕

事業所としての西東京市からの温室効果ガスの排出量については、東日本大震災の影響もあり、増加傾向にあります。

今後は、庁舎や施設の設備更新時に省エネルギー機器を導入することにより、温室効果ガスの削減を目指していきます。



西東京市の事務事業におけるCO<sub>2</sub>排出量

## （5）環境意識の醸成・協働の仕組み

### 〔現状〕

西東京市では、市民団体と協働で開催する観察会や環境講座が増加しており、参加型・体験型の講座も多く開催されています。なかでもエコプラザ西東京は、環境教育の拠点、環境団体や市民活動の場としての役割を果たしています。エコプラザ西東京では、市の取組に加えて国や東京都、市民団体の取組等の環境に関する情報を市民や事業者に提供しています。

### 〔課題〕

家庭や職場での小さな行動の積み重ねが、環境の負荷を軽減につながることを知る必要があります。

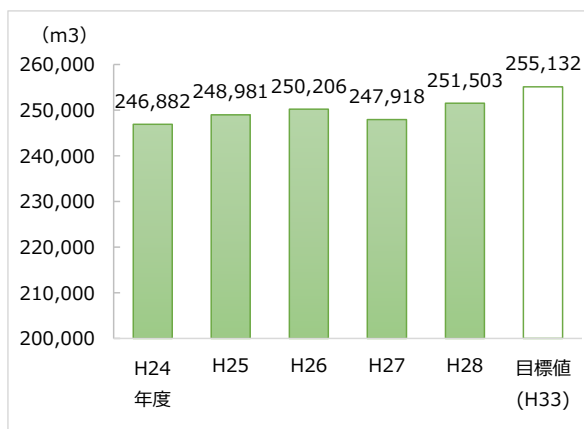
今後、市民・事業者・行政が協働でみどりの育成や省エネルギー等の環境保全活動を推進し、拡大していく必要があります。また、その取組の中で環境分野に関わる人たちが活躍できる場をつくり、活用することも必要です。

### 3.3. 前期計画の施策の進捗状況

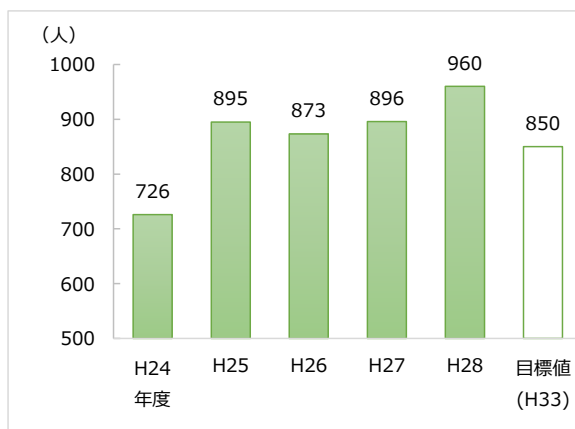
#### 基本方針 1. 自然環境、歴史的及び文化的環境資源の保全・再生を進めます

##### ■ 環境指標

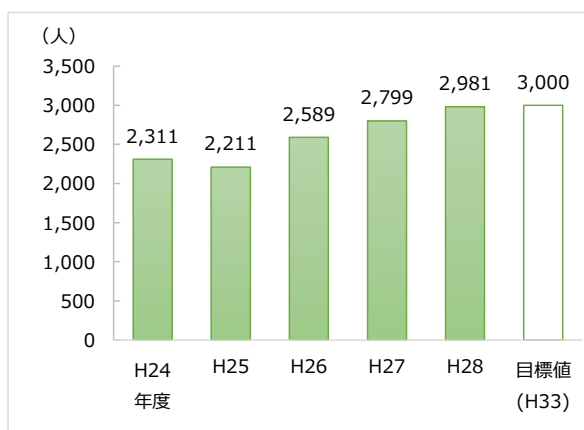
- 公園・緑地の面積は、平成 27 年度に借地公園が返還されたため公園面積が若干減少していますが、毎年度公園や緑地の整備が進められており、目標達成に向けて順調に推移しています。
- 公園ボランティア数は平成 25 年に大幅に増加し、その後も増加傾向となっており、平成 28 年度には 960 人と目標（850 人）を大幅に上回って目標を既に達成しています。
- 郷土資料室の来館者数は、平成 26 年度から順調に増加しており、目標達成に向けて順調に推移しています。



公園・緑地の面積



公園ボランティア数

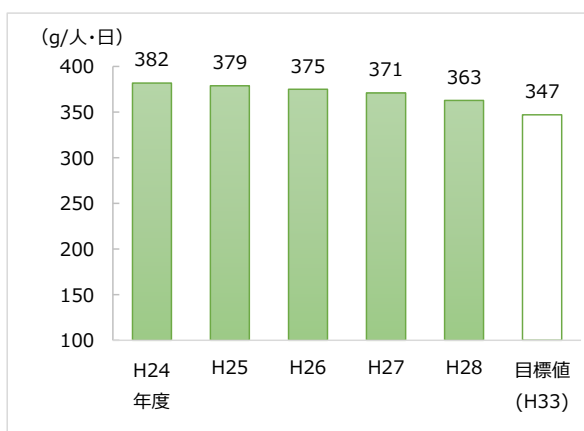


郷土資料室の来館者数

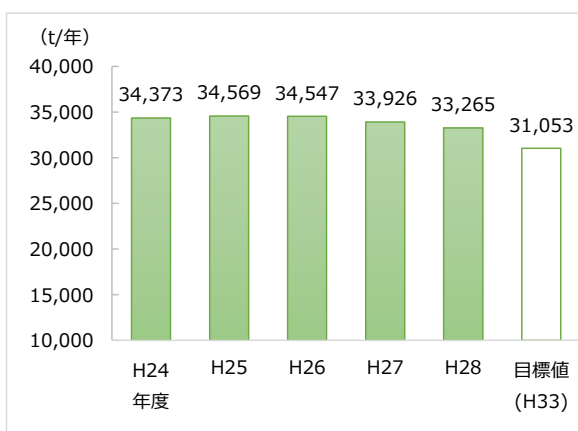
## 基本方針 2 .資源の有効活用、ごみの削減を進めます

### ■環境指標

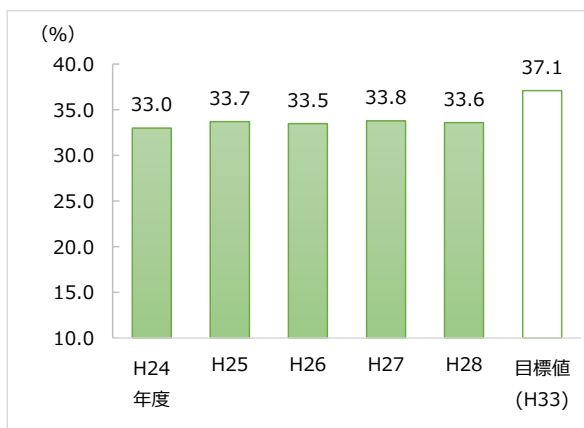
- 家庭ごみ原単位は、平成 25 年度以降毎年減少しており、目標達成に向けて順調に推移しています。
- ごみ排出量は、平成 25 年度をピークに緩やかに減少しており、目標達成に向けて順調に推移しています。
- 資源化率は、概ね横ばいで推移しており、目標達成に向けたさらなる取組の推進が必要です。



家庭ごみ原単位



ごみ排出量



資源化率

基本方針 3.安全・安心で快適な生活環境の確保を進めます

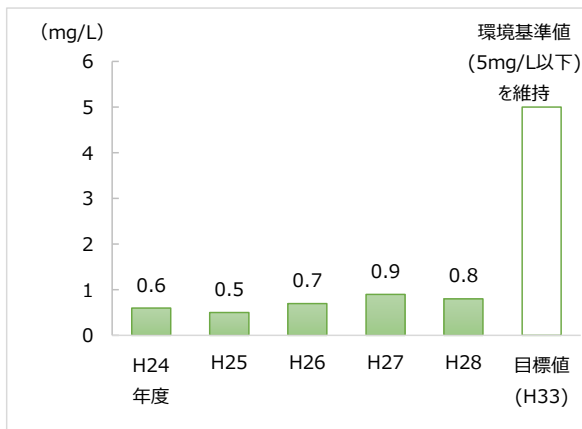
■環境指標

- 大気環境基準について、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質は全ての地点で環境基準を満たしており、毎年度目標を達成していますが、光化学オキシダントは目標を達成していません。
- 河川の水質（BOD）は、いずれの年度においても環境基準値（5mg/L以下）を満たしており、目標を達成しています。
- 自動車騒音は、いずれの年度も昼間・夜間ともに環境基準を満たしておらず、目標を達成していません。

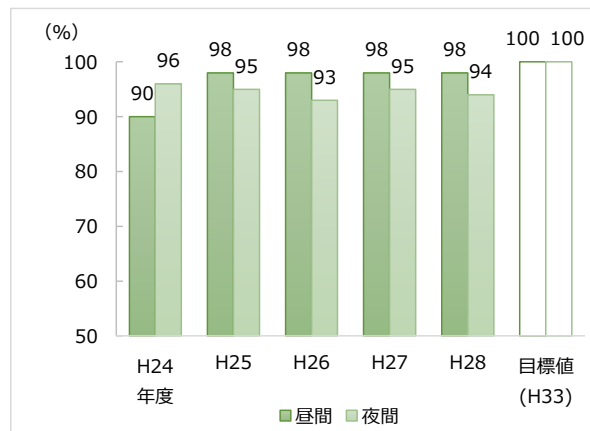
大気環境基準の達成状況

(達成地点/測定地点)

項目	実績値					目標値
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H33年度
二酸化窒素	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3
浮遊粒子状物質	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3	3/3
光化学オキシダント	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1



河川の水質の環境基準の達成状況 (BOD)  
(石神井川溜漕橋)

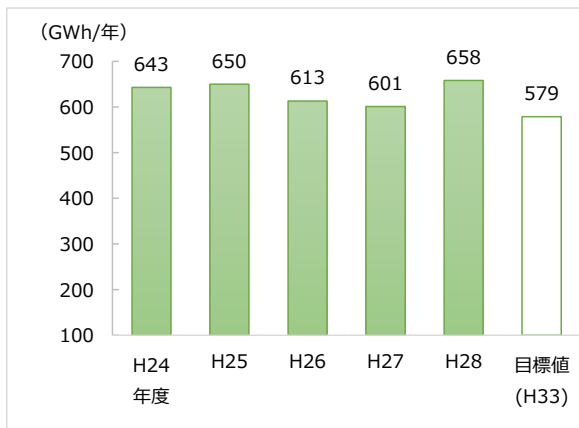


自動車騒音の環境基準の達成状況

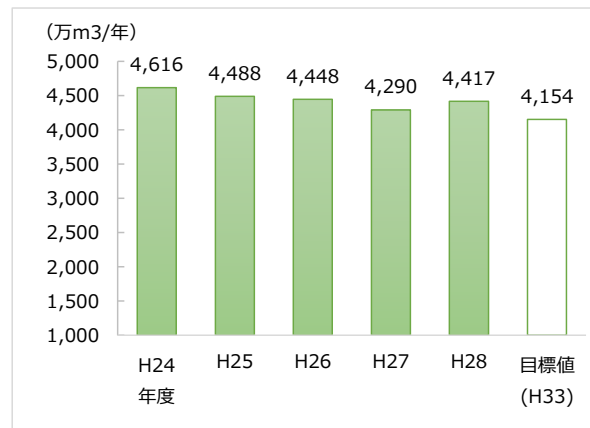
## 基本方針 4 .地球温暖化対策を進めます

### ■環境指標

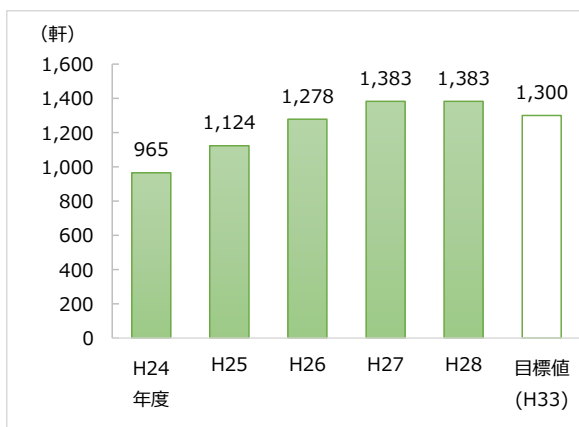
- 市内における電気の使用量は、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて減少傾向にありましたが、平成 28 年度は増加しています。
- 市内におけるガスの使用量は減少傾向にあります。
- 住宅用太陽光発電設備の設置数は増加傾向にあり、平成 27 年度に目標を達成しています。
- 市内の環境マネジメントシステム認証取得事業者数は、平成 24 年度から減少傾向にあり、目標を大きく下回っています。



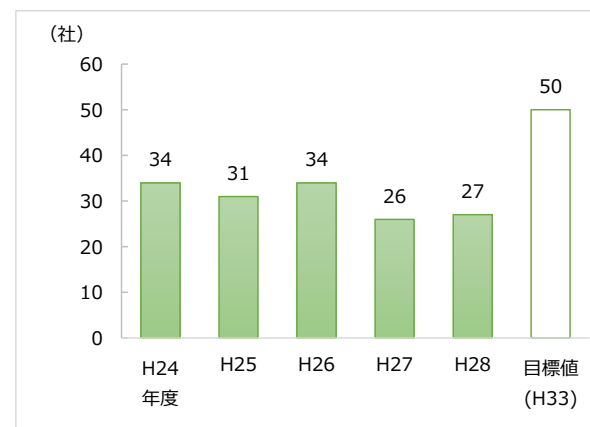
市内におけるエネルギー使用量（電気）



市内におけるエネルギー使用量（ガス）



※H28 年度値は H27 年度値を用いている  
住宅用太陽光発電設備の設置数（軒）



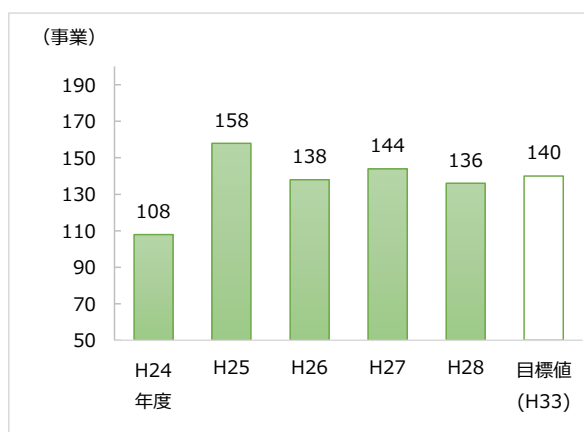
市内の環境マネジメントシステム認証取得の事業者数（社）



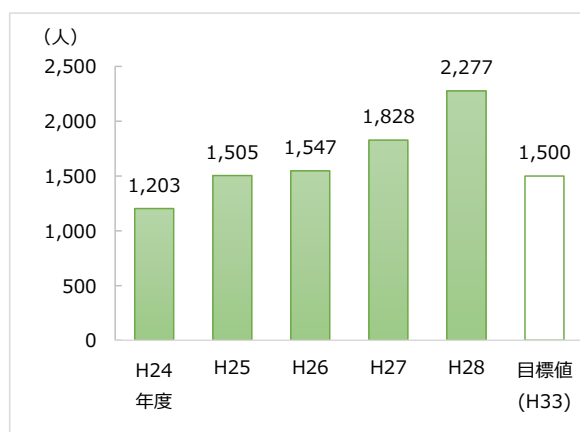
## 基本方針 5.環境意識の醸成・協働の仕組みづくりを進めます

### ■環境指標

- 環境学習事業数は、目標値である 140 事業前後を推移しており、平成 25 年度及び平成 24 年度は目標を達成しています。
- 環境学習講座への参加人数は順調に増加しており、平成 25 年度以降、目標を達成しています。
- 地域での環境保全活動に参加したことがある市民の割合は、本計画策定にあたって実施するアンケートにおいて、当該数値の把握を行います。



環境学習事業数(事業)



環境学習講座への参加者数(人)

実績値		目標値
H24年度	H30年度	H33年度
6%	(調査予定)	10%

地域での環境保全活動に参加したことがある市民の割合(%)